

教育長室からのお知らせ No. 51(令和元年 10 月)

過日、関東地方を襲った台風 15 号は、千葉県を直撃し、とりわけ県南部を中心に多くの地域に甚大な被害をもたらしました。千葉県の住宅家屋の倒壊や損壊は 1 万数千棟となり、停電や断水、通信障害、道路の寸断や鉄道の不通なども広範囲そして長期にわたる激甚な災害となってしまいました。千葉県に長く暮らしてこられた方々が口々に「これほど大変な被害はなかったです」と話し、多くの被災された方々が「もう限界です」と苦境を漏らすほど、被害は実に深刻なものとなりました。いまなお被災が続いている状況ですが、あらためてお亡くなりになられた方や被災された皆様にお見舞いを申し上げます。

市川市でも台風による被害が多く発生し、学校においても浸水や損壊といった様々な被害を受けました。学校敷地内の倒木もいくつもありましたが、中でも学校のシンボルともいえるべき校庭の大木が根元から倒れてしまったという報告に、さぞ子どもたちはがっかりしているだろうと思わずその悲しげ顔を目に浮かべてしまいました。卒業生にとっても母校の大木が倒れたことは大変残念だったようで、その日のうちに私は(偶然ですが)ネット上に写真が発信されていたのを目にしました。あらためて学校がたくさんの人たちの愛情で支えられているのだということを実感させられました。

また、ある学校では、前日から管理職が学校に泊まって対応にあたったということです。台風当日には管理職ばかりでなく教職員も未明から出勤して、浸水や倒木に対する早くからの児童の安全確保に向けた準備をしたということも聞きました。

さらには、給食の調理員さんたちが朝 5 時前から続々と出勤してくれ、納入食材の検収から変更献立に対する調理対応を万全に行い、滞りなく通常の品揃えとなる給食を子どもたちに提供することができたという学校の対応も聞きました。その出勤の時間帯は市川で最も風雨の強い頃であったはずですが、出勤すること自体、困難をきわめた日でした。紹介しきれませんが、教職員が子どもたちのためにと日々注いでくださっている愛情の深さと誠実さの一端を強く実感させていただきました。

教育長 田中 庸恵